

術中神経機能検査装置仕様書

機器名：術中神経機能検査装置

メーカー名：日本光電

規格：MEE-2000

数量：1式

1. ハードウェア

- 1-1. 測定チャンネル数は16チャンネルを有すること。
- 1-2. 入力インピーダンスは1000M Ω 以上であること。
- 1-3. ノイズレベルは、1Hz～3kHzの周波数帯域で、4.5 μ V_{p-p}以下であること。
- 1-4. 弁別比は、106dB（平衡モード）または112dB（アイソレーションモード）以上であること。
- 1-5. 低域遮断フィルタを0.08Hz～3kHzの間で設定できること。

2. データ解析

- 2-1. A/D分解能は18bit以上であること。
- 2-2. サンプリングタイムは5 μ s以下であること。
- 2-3. 加算平均結果を過去に遡って取り消しできること。
- 2-4. 異なる測定設定をEP測定の各測定チャンネルに設定できること。

3. 波形表示

- 3-1. ディスプレイは、1920×1080ポイント以上の解像度で表示できること。
- 3-2. タッチパネルディスプレイを採用すること。
- 3-3. 表示波計本数は、EPが100,000本/chであること。
- 3-4. EP及びウォーターフォールにおいて8×6または16×3のレイアウトが可能であること。
- 3-5. イベント表示ができること。

4. 刺激装置

- 4-1. 刺激周波数は、0.1～50Hzの間で、0.01Hzで設定できること。
- 4-2. 電気刺激、音刺激、視覚刺激装置を内蔵していること。
- 4-3. 電気刺激は、定電流0～100mA 定電圧0～300Vの高出力を持つこと。
- 4-4. 電気刺激は、定電流0～30mA 定電流0～100Vの低出力を持つこと。

4-5. 電気刺激は、定電流 0~250mA 定電流 0~1000V の経頭蓋刺激用の刺激出力を持つこと。

5. 測定ソフトウェア

5-1. 検査プロトコルボタンは設定読み込み、設定保存、コピー、設定削除ができること。

5-2. 新規 EP は、検査種別、小分類、刺激装置を選択することにより作成できること。

5-3. 1 グループに割り当て可能な EP 測定数は、最大で 24 個であること。

5-4. 連続的に選択した EP 測定が行われるオートシーケンス機能を有すること。

5-5. 各オートシーケンスはシーケンスを 6 個有すること。

6. 記録・保存

6-1. 測定データの印刷が可能であること。

6-2. 内臓の HDD、DVD±RW/RAM、CD-R、CD-RW に波形を保存できること。

6-3. EP 波形表示本数は、100,000/ch であること。

6-4. ファイリング機能により、EEG 波形または Free-run 波形を保存できること。

6-5. 不慮のシステムダウンに備え、オートリカバリー機能を有すること。

6-6. 当院の脳波計、筋電計と同一の患者管理ができること。

7. その他

7-1. 設置にあたり、当院が用意した一次側設備以外に必要な改修工事等があれば当院担当職員と協議の上で落札者において施行すること。

7-2. 本調達に伴う、撤去、搬入、据付、配線、配管及び運転調整（オンライン接続等を含む）については、当院担当職員と事前協議の上で落札者において施行すること。

7-3. 機器の搬出・搬入のためのルート確保、養生等は落札者が実施すること。

7-4. 宮城県内に修理サポートセンターを有すること。

7-5. 納入後 1 年間は、無償で保守作業を実施すること。

7-6. 取り扱い説明に関する導入時の教育訓練を当院担当職員に十分に行うこと。取り扱い説明、教育訓練の実施に関する日程調整や回数については、当院担当職員と協議し決定すること。

7-7. 導入機器の日本語版の取扱説明書を 1 部備えること。また、取扱説

明書を PDF ファイル形式化したものも提供すること。

7－8．導入された機器の動作を判断するため、落札者が正常に動作することを示し、当院担当職員の承認を得た上で引き渡すこと。

7－9．その他定めのない事項については、当院担当職員と協議のうえ、その指示に従うものとする。

以上